

[ 成果情報名 ] ビワたてぼや症に対する有効薬剤の防除効果と効率的防除体系

[ 要約 ] マンゼブ水和剤およびピリダベン水和剤に対するビワサビダニの感受性は高く、開花前にマンゼブ水和剤、開花期にピリダベン水和剤を散布するとビワたてぼや症の発症が効率的に抑えられる。

[ キーワード ] ビワ、たてぼや症、ビワサビダニ、防除体系

[ 担当 ] 長崎県果樹試験場・病害虫科

[ 連絡先 ] 電話 0957-55-8740、電子メール fbyochu@afes.pref.nagasaki.jp

[ 区分 ] 九州沖縄農業・果樹、病害虫

[ 分類 ] 普及

-----  
[ 背景・ねらい ]

ビワたてぼや症はビワの開花前後に果実にビワサビダニが寄生し、その加害痕に灰色かび病菌が寄生することで、果面に褐色の縦縞が発生する障害である。本症は開花期にサビダニを防除すると被害が軽減されることが明らかとなっているが、有効薬剤の選抜と体系化がされていない。そこで、たてぼや症に対する有効薬剤の効果を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . マンゼブ水和剤 600倍およびピリダベン水和剤3000倍に対するビワサビダニの感受性は高い ( 図 1 )。
- 2 . ビワたてぼや症は開花前にマンゼブ水和剤 600倍、開花期にピリダベン水和剤3000倍を体系散布すると、慣行の開花期ピリダベン水和剤3000倍のみ散布に比べ、発症が効率的に抑制できる ( 表 1 )。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . たてぼや症の多発生地域で効率的防除に活用できる。

[ 具体的データ ]

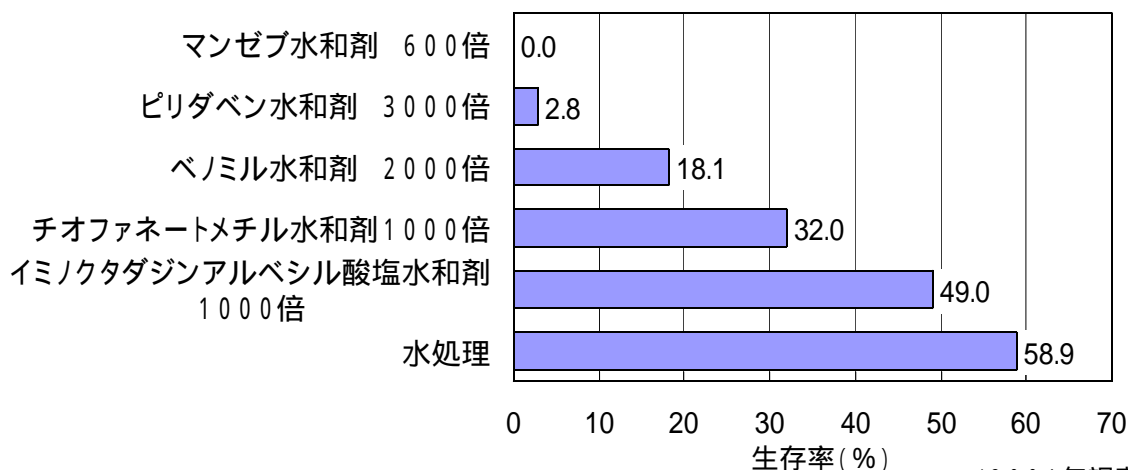


図1 有効薬剤に対するピワサビダニの感受性

ベノミル水和剤、チオファネートメチル水和剤は灰斑病防除薬剤  
イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤は灰色かび病、灰斑病防除薬剤

表1 ピワたてばや症に対する各種体系の防除効果

体系名	開花前 10月18日	開花期 11月16日	発症果率 (%)	発症度 (防除価)
A	マンゼブ水和剤 600倍	ピリダベン水和剤 3,000倍	2.5	0.5 (97)
B	無散布	ピリダベン水和剤 3,000倍	5.0	1.0 (94)
C	無散布	無散布	47.5	16.7

調査：2000年5月8日、発症度は被害を多(5)、中(3)、少(1)に分け

(カッコ内は発症指数)、次式で算出

発症度=100×{(発症指数×該当発症数)/(5×調査果数)}

灰色かび病の防除薬剤はイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤1000倍を散布

防除価は無散布の発症度に対する各体系の発症度の割合

[ その他 ]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：平成14年度(昭和58年～)

研究担当者：中村吉秀、小嶺正敬、早田栄一郎